

平成29年度(2017年度)

管理事業名	少年自然の家事業				総合計画の体系	第4章 第1節	個性が広がる学びと文化創造のまちづくり 学が意欲と主体性を育てるまちづくり	
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費	(目) 7	少年自然の家費	
部局名	地域教育部	予算執行所属	少年自然の家					
予算大事業名 施設管理事業 施設運営事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名							
事業の目的と概要 施設管理事業では施設利用者に対して、自然に親しみながら、野外活動や自然観察プログラム等を安全に展開できるように環境整備を行っています。ハード面では、非常時の安全を確保する自家用発電機、屋外トイレの屋根等の改修、野外利用者に快適に宿泊していただけるよう老朽化したドームテントの更新を行い、また、ソフト面では、施設の有効利用を図るため、申し込み期間の拡充、利用要件の緩和、休所日の開所等の取り組みをホームページなどを通して情報発信しています。利用される方には「自然の家をもう一度行ってみたい」と思っていたら、利用者目線に立った受け入れを行っています。また、学校団体等への「自然観察指導」のプログラム提案を行い、より環境学習に取り組みたいと思っています。 施設運営事業では、高島市との交流事業の「少年キャンプ大会」、地域の特性を活かした「森林体験事業」、自然を活かした「自然観察会」等の主催事業を引き続き開催します。また、「もくもくオープンデー」を開催し多くの方に施設を知っていただく場を提供しています。								

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	成果指標の定義
利用者人数	人	21,120	20,944	20,113	施設の延べ利用者数(利用人数×利用日数)
利用率	%	78.3	78.5	73.5	年間の開所日数に対する利用日数の割合
利用団体件数	件	365	355	353	年間の利用団体数
成果の説明	平成28年度の利用状況と比較しますと、台風等の影響もあり、利用者人数、利用団体件数は少しの減少でありましたが、利用率においては5%の減少であり、平日利用の促進を図っていくことが急務であると考えます。また、利用要件の緩和、ホームページによる情報発信の強化、小中学校へのアンケート実施等の取り組みを行い、利用者ニーズに応えた柔軟な施設の運営を図り、数値では表すことのできない満足度を得ていただくことができました。さらに、環境教育の取り組みとして「自然観察指導」では小学校など45団体(1,664人)が参加され、日頃体験できない自然との触れ合いを満喫していただきました。 主催事業では、従前から行っている「少年キャンプ大会」、「少年の村」、「森林体験事業」を実施し、それぞれの事業の特性を活かしたプログラムを実施し、プログラムの充実を図ることができました。また、「自然観察会」では16件(437人)が参加され四季を通じての自然に触れていただきました。さらに、「もくもくオープンデー」で施設で体験できるプログラムを通して施設のPRができました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	2,788	2,599	2,579	△20
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	136	361	104	△257
経常収入 小計(a)	2,924	2,960	2,682	△277
給与関係費	37,562	36,921	37,605	684
物件費	29,631	29,106	28,588	△518
維持補修費	2,209	3,274	6,949	3,675
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	1,050	974	974	△0
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	8,224	8,224	8,007	△216
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,823	1,854	1,880	26
退職手当引当金繰入額	1,404	1,498	1,399	△99
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	8,316	8,316
経常費用 小計(b)	81,903	81,851	93,718	11,867
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△78,979	△78,891	△91,036	△12,144
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△78,979	△78,891	△91,036	△12,144
一般財源充当額	71,728	79,665	87,819	8,154
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△7,251	774	△3,217	△3,990

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常費用 維持補修費	自然災害(台風等)に伴う修繕費1,716千円増加。
経常費用 その他	平成28年度に計上すべき、風呂用ろ過機の改修工事を、平成29年度に計上したことによる計上経費の8,316千円増加。

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	2,924	2,720	2,682	△37
行政サービス活動支出	74,653	74,069	77,990	3,921
行政サービス活動収支差額	△71,728	△71,349	△75,308	△3,959
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	8,316	12,511	4,195
投資活動収支差額	-	△8,316	△12,511	△4,195
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△71,728	△79,665	△87,819	△8,154
一般財源充当額	71,728	79,665	87,819	8,154
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	内容
自家発電機更新	16,002千円
屋外トイレ屋根改修	3,183千円

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
開所日1日あたりのコスト	平成27年度	313 日	261,671 円	開所日1日あたり299,419円のコストがかかっています。増加の理由は、平成28年度で計上すべき風呂用ろ過機の改修工事を、平成29年度に計上したことによるものです。
	平成28年度	302 日	271,030 円	
	平成29年度	313 日	299,419 円	
利用者1人あたりのコスト	平成27年度	21,120 人	3,878 円	利用者1人あたり4,660円のコストがかかっています。増加の理由は、平成28年度で計上すべき風呂用ろ過機の改修工事を、平成29年度に計上したことによるものです。
	平成28年度	20,944 人	3,908 円	
	平成29年度	20,113 人	4,660 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	1,854	1,880	26
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	1,854	1,880	26
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	1,077,434	1,073,622	△3,812	固定負債	20,967	20,345	△621
土地	964,984	964,984	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	104,134	108,638	4,504	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	20,967	20,345	△621
建設仮勘定	8,316	-	△8,316	リース債務	-	-	-
無形固定資産	240	240	-	その他固定負債	-	-	-
固定資産	-	-	-	負債の部合計	22,821	22,225	△596
インフラ資産	-	-	-	純資産	1,054,854	1,051,637	△3,217
有形固定資産	-	-	-	重要物品	0	0	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	-	-	-
重要物品	0	0	-	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	-	-	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	1,077,674	1,073,862	△3,812
基金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	1,077,674	1,073,862	△3,812
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

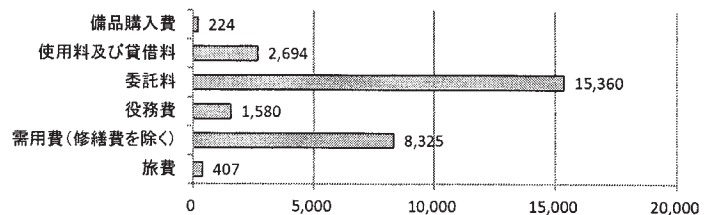
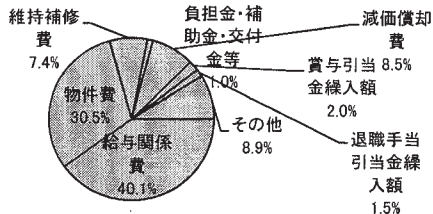
	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇員 年間従事日数	審議会委員等 実人数	
事業従事人数	3人	4.75人	286日	15人	
給与関係費等	25,132千円	13,062千円	2,388千円	302千円	合計(千円) 40,884
内、時間外勤務手当	404千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	発電機設備改修工事

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立少年自然の家
取得年月日	昭和55年(1980年)5月5日
建物・工作物の取得価額	415,341 千円
建物・工作物の減価償却累計額	306,703 千円
利用料金収入	2,579 千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			
		平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.5	0.8	1.7	0.9
施設老朽化比率		72.1	74.1	73.8	△0.3
受益者負担比率		3.4	3.2	2.8	△0.4
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		96.1	96.7	97.0	0.3
経常費用対公共資産比率		20.3	20.3	22.6	2.3

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常経費の主なものは、給与関係が40,884千円(40.1%)、物件費28,588千円(30.5%)、その他8,316千円(8.9%)、減価償却費8,007千円(8.5%)、維持補修費6,949千円(7.4%)となっております。物件費の主な内訳は、5,715千円が警備業務委託料、3,175千円が清掃業務委託料、6,670千円が需用費(光熱水費、燃料費)です。維持補修費の主な内訳は1,345千円が高圧受電設備の改修工事費、1,188千円が台風の影響による修繕費です。原価償却による資産の(建物)は、減少しております。老朽化比率は、73.8%で前年度と比較しますと改修工事により0.3%老朽化が回復しています。主な経常収入につきましては、少年自然の家使用料(宿泊使用料及びシート使用料他)が2,579千円です。前年度に比べて20千円減少しました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

施設は昭和55年(1980年)に建設され38年が経過しました。これまでに耐震改修工事、本館の外壁塗装、冷暖房機械の更新、野外食堂(2棟)の建設、風呂過機の更新など、施設の老朽化と多様化する利用者のニーズに対応した施設の改修を行ってきました。平成29年度は、非常時の最低限の機能を賄う自家発電機の更新、屋外トイレの屋根の改修など利用者みなさんが安心安全に利用していただける改修を行いました。今後は施設のリノベーションも視野に入れ優先順位をつけ利用者のニーズに対応した改修を年次計画に基づき実施する必要があります。また、利用者の増加策、運営経費の縮減など他の施設の状況を把握し、より効率的・効果的な施設の運営方法も検討してまいります。

29年度の利用件数、利用率、利用団体数は、台風等の影響(キャンセル13団体)で前年度と比較し減少しましたが、申し込み件数では昨年を上回りました。利用条件の緩和、申し込み期間の拡充、休日等の臨時開所などの施策は、ホームページなどを活用した積極的なPR活動等により一定の効果を受けており、今後も継続していきます。施設の有効利用を考える上で平日利用の促進が大きな課題であり、吹田市の学校にアンケートを実施した結果を分析し、今後の施設運営に活かしていきます。また、施設魅力である豊富な自然を活かした取り組みとして、自然観察会の充実及び高島市観光協会と連携など幅広いプログラムの提供が必要と考えています。